

(別紙4(2))

事業所名 グループホームジョイア矢作

## 目標達成計画

作成日: 令和元年10月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災の仕組みについて、ホーム内の機器の使い方や仕組みを把握できていない部分がある。	非常災害時に適切に危機を使い、安全に避難をできる。	非常災害時の危機の確認(火災報知機、刑法など)。また、ソーラーが使用できるコンセン特的確認をし、周知を図る。	12ヶ月
2	35	避難場所の確認、地域との連携を図る	非常災害時の避難場所が非現実的。どのような場合にどう避難していくか、考えていく。また、避難時に地域の方の協力をより取り付けていく。	運営推進会議を用いての話し合い、地域の避難訓練への参加	12ヶ月
3	19	ご家族様とのより綿密なかかわり方を作る	手紙や面会時以外に、ご家族様にホームでのご様子をお伝えする方法を確保する。	写真の送付や、面会時のご挨拶、様々な方面からのアプローチを検討する。他ホームの事例を検討する。	12ヶ月
4	33	看取りの向き合い方、知識について勉強が必要。ホーム内で看取り支援を行ったが、当時の職員がほとんどいなくなってしまう。改めて、看取りの勉強、向き合い方について学ぶ必要がある	看取り支援を行う事になった時も、適切な対応が出来る。より良い最期について、職員一人ひとりが考えられるようにする。	勉強会の実施、普段より見取りとは何なのか、よりよい最期とは何かについて学ぶ機会を作る。	13ヶ月
5	29	地域資源の活用をより増やしていく。	新たなボランティア、慰問を増やしていく。	やはぎかんの活用、また、リブラなどの地域の交流スペースを活用し、新しいホームの交流を行っていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。